

第 17 回日本母性看護学会学術集会

エビデンス構築のためのシステマティックレビュー

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻看護疫学教室

牧本 清子

システマティックレビュー (SR) は、臨床で活用されているガイドラインの情報の基盤をなすものであり、エビデンスに基づく実践 (EBP) に必要不可欠なものである。ここでは、SR のプロセス、SR の事例、SR 評価方法としての FAME スケールを紹介する。

SR は大きく分けて 3 種類に分類でき、量的研究の統合、質的研究の統合、質的研究と量的研究を統合したものがある。Medline の検索では高齢女性を対象とした研究のテーマでは 12 件の SR を選出した。SR のテーマとしては、脳・心血管系疾患に関する研究の SR が一番多く 6 件で、スタチンやアスピリンなどの内服と脳・心血管系疾患の予防効果、喫煙や運動レベルなどの生活習慣とに乳がんのリスクに関する SR が 2 件、骨密度や骨折の予防に関する SR が 2 件、尿失禁や更年期のほてりに関する SR が 3 件であった。

質的研究のメタ統合の紹介として、女性の心筋梗塞の受診の遅れの理由を紹介する。この SR は 48 の報告 (11 ヶ国、100 万人のデータ) に基づき、心筋梗塞の受診の遅れの主要な要因を抽出した。これらは、症状や重症度などの臨床的要因、年齢や性別などの人口学的要因、そして所得や学歴などの社会経済的要因である。その他の要因としては、症状発生の場所や時間帯、病院への距離、相談する相手などが抽出された。

メタ分析は量的研究を統計学的手法により結果を統合したものである。ここでは閉経期後の乳がんにおけるメタボリックシンドローム (メタボ) のリスクを解析した 9 件の研究に基づく SR を紹介する。乳がんの危険因子は多く、年齢、出産歴や遺伝的要因の他に、飲酒、喫煙、メタボなどの生活習慣など多岐にわたる。この SR は洗練された手法で、メタボを構成する血圧、TG、コレステロール、血糖値のリスクの和よりも、メタボそのもののリスクが高いことを明らかにした。

これらの SR 事例を FAME スケール (Feasibility 実行可能性、Appropriateness 適切性、Meaningfulness 患者にとっての介入の重要性、Effectiveness 臨床的效果) に基づき日本での活用性を検討する。